様式第１号（第１０条関係）

2024 年度業務実績報告書

提出日　2025 年 1 月 17 日

１．職名・氏名　　准教授　　松岡　孝恭

２．学位　　学位　博士（応用経済学）、専門分野　統計学、
授与機関　大阪大学、授与年月　2010 年 3 月 23 日

３．教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 統計学（2 単位）1 年次
②内容・ねらい ［内容］　統計学と確率論の基礎を学び、推定や検定といった統計的推測の原理を習得する。 ［ねらい］　以下の能力の養成：（１）確率の考え方を理解して基本的な確率分布について確率の計算ができる、（２）点推定、区間推定、仮説検定の原理を理解できる。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 すべての回の講義資料を事前に配布した。講義ではペンタブレットで直接講義内容を書き込み、板書の代わりとした。これにより内容の理解が深まったと考えられる。大数の法則と中心極限定理を解説するために、Python でプログラムを書き、シミュレーションの結果を示した。
①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 計量経済学（2 単位）2 年次
②内容・ねらい ［内容］　2 つの変数の因果関係を分析する回帰モデルに関する推定と検定の手法を習得する。 ［ねらい］　回帰モデルについて理解し、分析手法を自身の問題に応用できるようになる。具体的には、(１)回帰分析の前提となる統計的な考え方が理解できるようになる、(２)モデルから出てきた結論を理解して結果について解釈できるようになる。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 すべての講義回の資料をオンラインで配布し、学生が自習しやすいようにした。資料に基づいて講義を進めたが、そこではスライドの映写を使わず、すべて板書で行った。これにより、内容の理解、特に論理の展開に関する理解が進んだと考えられる。
①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 オムニバス「経済学」（1/15 単位）1 年次
②内容・ねらい ［内容］計量経済学や広く実証分析がどのような学問上の目的を持っているか解説した。実証分析の例として GDP 統計を取り上げ、名目と実質、ストックとフロー、ミクロとマクロの視点の違いなどを説明した。 ［ねらい］経済データの基本とデータ分析のための基礎知識が身につく。マクロ的な GDP 統計がミクロ的な財務諸表とつながることを理解する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 すべての回の講義資料を事前に配布した。講義ではペンタブレットで直接講義内容を書き込み、板書の代わりとした。講義の理解度をチェックするための演習問題を作成し、Google フォーム上で回答できるようにした。
①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 外書講読Ⅰ（2 単位）2 年次
②内容・ねらい

［内容］Statistical Handbook of Japan の最新版を読む。ハンドブックに収められた幅広いトピックに関するデータを観て、日本経済や社会のすがたをよく理解する。ハンドブックから統計データに関する英語表現を学び、それを利用して英文レポートを作成する。
［ねらい］教科書にある経済データを読み解くなかで、日本経済の様子について深く理解することができる。統計データに関する英語表現に慣れ親しむことで、英語でデータの特徴を述べることができるようになる。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
教科書から統計データに関する英語表現を抽出し、表現カードを作成させた。表現カードの表現を使って英作文を行う演習を行った。英字新聞から英作文のもとになる文を抽出することで、英文作成能力を涵養するとともに、時事英語や経済事情にも強くなったと考えられる。

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
演習Ⅰ（4 単位）3 年次

②内容・ねらい
［内容］統計学や計量経済学の分析スキルを身に付けながら、設定した問題に対してデータを使って答えを出し、結果を論文の形にまとめる。その過程で文献の読み方や論文の書き方、プレゼンの仕方などのアカデミックスキルを習得する。
［ねらい］実証分析を行い能動的に読み書きする中で、アカデミックスキル（読む、書く、話す力、論理的思考力、データ分析能力）を身につける。また広い意味でのスキル（目的志向、独立した思考力、時間管理能力など）も身につける。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
受講者一人ひとり異なる研究テーマを設定し、分析を進めている。講義では全員共通で必要な研究や論文作成に関するスキルを解説するとともに、個別に相談時間を設けて分析を進めた。分析に使うファイルを Github 上で共有し、講義ではペアプログラミング的な環境で分析内容に関する指導を行った。

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
演習Ⅱ（4 単位）4 年次

②内容・ねらい
［内容］演習Ⅰで取り組んだ実証分析の結果を踏まえて、より発展的な分析を行う。また、演習Ⅰで学んだ調査・研究の方法と論文執筆に関するノウハウを生かして卒業論文・ゼミ論文作成に取り組む。
［ねらい］実証分析の手法と能動的に読み書きする能力を身につけ、現実のデータから意味のある結果を導くことができる。具体的には(1)基礎的な計量モデルを理解し、(2)自分の問いを軸に文献を読み、(3)分析結果を構造的にしっかりとした論文にまとめ、(4)プレゼンで分かりやすく伝えられるようになる。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
受講者自身が研究テーマを設定し、分析を進めた。講義では研究や論文作成に必要なスキルを解説するとともに、テーマについて考察し、分析する時間を毎回設けた。分析に使うファイルを Github 上で共有し、講義ではペアプログラミング的な環境で指導を行った。

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
統計・計量Ⅰ（2 単位）修士 1 年次

②内容・ねらい
[内容]オープンソースソフトウェアの Python を使ってデータ分析に必要なさまざまな技法を問題演習形式で学ぶ。
［ねらい］計量分析ソフトウェアを使って経済データを分析できるようになる。具体的には経済データの分析と分析結果の表現のために必要な技能を習得する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
データ分析を中心とする標準的な Python の教科書を使い、初学者向けの演習を行った。教科書にあるプログラムの通り、実行できることを確認した後に、プログラムの拡張の方向性を示

した。受講生の研究テーマに応じてデータの収集、分析、レポートの作成を行い、講義で学んだ内容を自身の研究につなげられるようにした。
(2)その他の教育活動
内容

４．研究業績

(1)研究業績の公表
①著書 【　本】
②　学術論文（査読あり） 松岡孝恭「北陸新幹線金沢開業後の宿泊者数の変化－重心移動と構造変化の検証－」『福井県立大学経済経営研究』（第 47 号、2024 年 3 月） 【1 本】
③その他論文（査読なし） 【　本】
④　学会発表等 松岡孝恭「当該支援事業における総評等について」（令和５年度地方統計機構支援事業（福井県）支援結果に係る都道府県への報告会、2024 年 4 月 11 日） 【1 件】
⑤　その他の公表実績 松岡孝恭「都道府県の宿泊者数の重心」（Web サービス、2024 年 3 月-現在） 松岡孝恭「福井県の観光特性はこれからどう変わるか？－ 中長期的変化を可視化する Web サイト『都道府県の宿泊者数の重心』を公開－ 」（寄稿、福井県立大学 2024 年度福井県立大学研究シーズ集、2024 年 11 月） 【2 本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績
(3)特許等取得
(4)学会活動等

５．地域・社会貢献活動

①-1 委員就任（国）
「令和 5 年度地方統計機構支援事業検討会委員」（総務省政策統括官（統計制度担当）、2023 年 10 月-2024 年 3 月）

⑥公開講座、オープンカレッジ、社会人・高校生向けの講座の開講
松岡孝恭「大学で学ぶとは– 勉強から探求、そして研究へ– 」（講師、福井県立大学経済学部 学問発見講座 福井県立大野高等学校、2024 年 11 月 7 日）

６．大学運営への参画

(1)補職
(2)委員会・チーム活動
情報教育・DX 委員 入試制度検討委員
(3)学内行事への参加
(4)その他、自発的活動など
経済学部オリジナル Web ページへの寄稿（統計学、計量経済学）